

要旨 パロディ化する「漢学文化」と近代日本

—20 世紀前半の「漢文文化」の軌跡とハイカルチャー/サブカルチャー

江藤茂博 2014 年 2 月 24 日 於清華大学

- 1 漢学・漢文の衰退は、明治期以降の近代化日本社会建設のなかで、徐々に進行していった。国語という教科思想が確立するとともに、漢文科はその国語の教科要素として組み込まれることになった。そのことは、学校制度や教科教育制度での漢文教科専有枠や漢文教育時間数枠の軽減の方向へと向かう。しかし、明治期以来の公文書での漢文脈文章の使用、さらに国家主義思想と漢文脈の表現思想とが連結、それらのために戦時下の日本では漢文教育が再強化された。特に、高等教育入学試験では、選別機能のために、あるいは官僚として求められる教養として、入試に漢文が出題され続けていた。
- 2 第二次世界大戦での敗戦は、戦時下の思想教育についての反省から漢文教育の比重は著しく軽くなる。このことは、その後の 60 年代からの大学進学数の急増期に漢文入試科目の軽減傾向と結びついた。しかし、教員世代は戦前の漢文教育を受けた人たちであり、戦後国語科教員層が世代交代を迎えたわけではない。この落差が、戦後の漢文文化にさまざまな影響を与えたと想像できる。
- 3 学校教育からではとらえにくい戦後の漢文文化の事例を、今回は日本映画のなかから拾い上げることにする。ひとつは、中平康監督の日活映画「牛乳屋フランキー」(1956)で、ここでは主人公堺六平太が長州の故郷から上京する際の、親戚の長老の言葉に漢詩が使われていることである。ここには、石原慎太郎のパロディである石山金太郎や西郷隆盛のパロディである南郷隆盛が登場する。もうひとつは、小津安二郎監督の松竹映画「秋刀魚の味」(1962)で、主人公山周平のかつての恩師(元旧制中学漢文教師)佐久間清太郎が、戦後に娘と中華料理屋「燕来軒」を営んでいる場面である。「燕来」は万葉集からのものではなかったかと想像する。脚本を担当した野田高梧は江戸時代末期の漢学者野田笛浦の孫である。これらには、漢文脈の知識を前提としたパロディが配置されていて、漢文教育を受けた世代を前提としたパロディがサブカルチャーにおいても機能していることが見て取れる。
- 4 第二次世界大戦後の 20 世紀中ごろの大衆文化は、しばらくは漢文脈の知識が否定的な意味合いを持っていた時代であった。ここではその様相をとらえてきたが、その後の様相を示しているものとして、押井守監督のアニメーション映画「イノセンス」(2004)で使われる漢字や論語を取り上げたい。「イノセンス」では、漢字はデザインとして機能し、論語などは古今東西の思想家・哲学者・文学者の思想のひとつとして紹介されていたのである。ここには、漢文文化というものの 20 世紀の軌跡と到達点が見えてくるのではないかと想像できる。

395.8

昭和三十三年

歐文社編輯部

國漢入學式問題

高等學校
專門學校
大學等科

東京歐文社出版部

場合にも、家でやる場合にも大體日の預定がつくと思ふ。猶家でやる時には、自分で必ず辭書を引いてみて、最後に判らない所は、入試問題辭解の方の頁が各問題につけてあるから参照して頂きたい。入試問題辭解の方は僅かに入試が始つてから十日間で作りに上げて境界に一大センチメートルを取った程のものであるが、解答の十分に信用するに足るものであることは吾が歐文社の名に於て斷言する。弊社は、諸君が本書を利用して、入試に必要な力を十分に涵養し、来る可き入試を突破せられんことを衷心より希む。

昭和十二年四月

歐文社指導部

例言

1、最近の國語入試問題には單なる訓詁的な解釋を離れて、多角的な要求によつて問題に對する全體的な理解力をテストしようとする傾向が濃厚に現はれてゐる。この點に留意して問題の排列に特に工夫を加へ、中等學校上級用並に補習科用の教科として劃切なものたらしめようとしたのが本書である。

2、本書に於ては本年度入試問題を最大限に集録し、しかも精細な合理的な分類によつて使用上の單純化を第一に考慮した。

3、國語英文共に、先づ出題様式によつて數項に大別し、問題數の多い項目にあつては更に國語を時代別に、漢文を内容思想別に排列し、且つ出典の明らかなものはこれを類別して、參考準備書選擇の便に供した。

4、出題様式の排列順序は大體問題數の多いものより少いものに及ぼしたが、これは同時に先づ根柢手法を養ひ、次に應用的態度を養ふといふ交驗準備の常道的進路にも即するものと信ずる。この意味で全問題の頭に附せられた進捗號は重要な役目を持つてゐらう。

5、各問題の校名の下に數字は、弊社「入試問題辭解國漢科解答」の頁數を示すもので、同書併用の場合の参照の便を計つて特に添へたものである。

6、全入試問題の多種多様な様式をこの様に分類したこと、及び入試問題の性質として出典不明のものも當方の推定によつて類別せざるを得なかつたこと等の事情から、勢ひ、時代・項目の妥當でないものも時にはあることと思ふ。大方諸君の叱正を賜はば本科の悦びと共に過ぐるものはない。

昭和十二年四月

歐文社國漢科指導部

【二四】左ノ文ニ返聞返假名ヲ附シ且之ヲ解釋七三。

顯之以仁義教之以忠孝使天下之民志一定於茲則其智之所達其才之所成發於言辭，顯於行實施爲事業者莫不出於仁義忠孝也。幼童編塾序（附錄，文科理科諸道）（國大初二編）

【三】次ノ文ニ返贈送假名ヲ施シ且釋セヨ。

國不獨至一豈而已也。三才之民心腹膺泄怒之氣生矣。而其利益必及於他人加於邦一中村敬宇（國大猷）（三書）

二二 次ノ文ニ送假名ヲ施シ且解釋七百。

第一 人死。無藥者飲酒。病者飽食。死者空腹。事不可執一而論。
 第二 三人便置血而行。一人無慈。一人

三人留大驛行。欲顯畜眾志。六

又一年何與避也久避在心不在年。

意憐之冬日何堪長也。遊魚之遊日丁未年二月三日。解之。言。

不_レ能_レ與_レ。上_二多_レ也之_一言_レ爲_レ益_レ相_レ與_レ心_レ術_レ可_レ也。光_レ觀_レ其_レ醉_レ子。又_レ臨_レ其_レ管_レ鑿_レ大_レ紙_レ。

【九】左ノ文ヲ解釋ス。

凡左ノ文章ニ榮假名ヲ附シ且ツ之ヲ解スベシ。

志之邦丘。終日從事。讀書。一官。志錄一 (六四) (三)

〔七〕左「文章」送假名ヲ附ケ且之ヲ解釋セヨ。
後學之於先儒也。固豈不可不推尊。然學問之道。天下之公道。其是非非之際。可爲
公直之正鵠也。近世學者。助阿諛曲從于光緒。而習爲俗者何耶。
——貞原益軒——（廣惠）（二七）

〔六〕次の文に選假名を施し且つ之を廢せよ。

今之學者大率贊人之不學之意思常多而貶己之不學之意思常少。此輩以聖賢神人以爲人發己。是以爲學者所以終無益乎己也。

！深思錄！ 邱葵（三三）

五ノ左ノ文章ニ返點ト送假名トヲ附ケ且之ヲ解釋セヨ。

人之黷學痼癘。蓄以時日之力。放志士惜日短。嗚呼此日難奪得。今年不盡來。是以學發最要惜時日。豈可廢時曠日乎。

——演思錄—— (久慈) (參)

(四) 左の文に虚名を施し、右側に解釋せよ。

孟子曰、有不慮之殽、苟求全之鰥。是實鰥不若也。
以取威也。只内省不致、幾於大惑此。苟密而有得、雖他人不知、吾心良可珍。常人而微
人知之則共害氣物々、人不知之則或々不能樂。可觀其無得失

一讀恩録―(録語中平)(二五)

心也。

中等國語 三

文部省

(4)

目録

一 詩 五首	一
二 和漢朗詠	四
三 白樂天の詩	八
四 盤雪の功	十一
五 渡字の語	十五
六 墨子の説	二十一
七 莊子と列子	二十三
八 日本における漢文漢學	二十六
九 詩 五首	三十三
十 京都三景	三十七
十一 雙十節の由來	四十三
十二 孟子とその主張	四十六

一 詩 五首

閑巻をす漢詩を學ばう。第一首は、鑾車を詠したもの、第二首は遊藝の生徒に対する教訓、第三首には故郷を思ふ詩人の心情、第四首には遊學さきて受け取った家からの手紙の主旨をうかづべく、第五首はのどかな江南の春景色、いずれも平易に敘した五言の詩。後に添えた原詩を參考にしてよく味わうべきである。

鑾を轡む
禾を鋤いて日午に当たる
汗は滴る禾下の土
たれか知らん盤中の殘
粒々みな辛苦なるを

(季和)

一 詩 五首

それから、儒者が室内でどんなことをしたかいつていわからなむが、とにかく最年の病氣がたまたま忘れ去つたやうになつてしまつた。

華子は正氣にかゝつてよろこぶかと風うと、意外にも、ひどく立腹した。かれは髪をしかりつけ、子供たちを罰し、ほこをとりて儒者を家から追い拂つてしまつた。この胸の人々は華子に面かつて、なせそんなことをしたのかと尋ねた。すると華子は答えた。

「私が今までなにもかも忘れていた間は、私は天地の有無を覺ゆなかつた。今にわかに正氣に
かえると、こゝ十年來の得失・哀樂・好惡が、いささらのうちに私の心を惱ますようになった。こ
れから先もこの得失・哀樂・好惡が、今のようになつていつまでも私の心を苦しめるのではあるまいか。
恨んのしばらくでもいいから、もう一度なにとかして忘れることはできないものであつてうか。」

(林鶴堂「支那のユゝ」モリス・吉村正一郎の訳による)

八 日本における漢文漢學

われ／＼が日常使用する言語の中には、本来の日本語ではなく、漢語にもとづいたものがたくさんある。この漢語の使用は明治・大正時代の文章になると今よりもずっと多い。それのみか、そのころまでは、漢字ばかりを並べた文章も少なからず行われたのである。そ

の漢字のみの文章には、純粹の支那の文章に近いものもあるが、一方、中華國人には意味のわからぬものもある。それは、日本語を漢字をかりてうつしたものがその中にあるからである。今、いにしえにさかのぼって漢字や漢文をわれ／＼の祖先が、いかに學び、いかに使用したか、また支那についての考察、すなわち漢學が、どう發達して來たかをしるべてみよう。

あなたがたはすでに浦島太郎の傳説を讀んで和歌を學んだことと思う。あの歌は、万葉集では、か

神童之女爾……

春日之靈時節 墨吉之岸 蕭出居而釣舟之得幸良有見者古之華會所念水勢江之
 之浦陽見之堅魚釣 鋼釣竿 及七日 家爾毛不來而 海界平 遷而榜行邪 海若

というように記されていたのを、後の人が讀みこゝなして、かな交りに書きまゝしたのである。漢文を
 習つたことのない人は、漢字ばかりで書かれているから、これが漢文だと思ふかも知れないが、そう
 ではない。「春日」とか、「及七日」とか、「海若」とかいう文字は、なるほど漢字の意味をとつた語句
 である。しかし、「得平良布」とか、「爾毛」とか、「平」とかいう類は、すべて、わが國語を、漢字の
 音を借りてうつしたにすぎない。なぜ、かな文字で書かれなかつたかといふと、當時、わが國には文
 字がなかつた。かな文字は、もつと後になつて、漢字から作り出されたものである。

ところが、さうなるといふのは、漢字はいつごろ傳へて來たのか、どういふやうにして、その漢字を借

ちて日本語をつつようになつたかという疑問をいだくであらう。

古史の傳えるところによると、應神天皇の時に、朝鮮半島から王仁という人が、わが國に漢籍を傳えたといふ。そのころ、文字がなかつたわが國では、知識階級の人々が、きそつて支那の文章を習つた。その後佛教が輸入されて、次第にわが國に流行して來たが、その經文も支那の文章でつられて

いた。

われ／＼の祖先は、はじめはその支那文を、朝鮮人の傳えた支那の發音をまねて讀んでいたに違ひない。そしてそれにまねてみずから作つたりしていた。しかし、やがて、その支那文を日本流に讀み、となす方法を考へ出して、いわゆる訓讀をするようになり、漢文という名稱も起つて來た。また、漢字の意味や發音をかりて、自分たちの言語や思想を表わすようになった。この清麿の長歌は、かようにしてできたものである。

そも／＼、わが國が、古くから公私の交通をしていた國は、支那大陸と朝鮮であつた。大陸との

國の制度や學藝をもたらした。大化の改新の實行にはかれらの力が大きかつたのである。

藤原・奈良・平安の時代の制度は唐制の模倣であるといつてもよい。律令や學制の内容は唐制に近い。學問文章とともに、支那の思想も早くから輸入されて、種々の書物も作られた。古くから傳承された

方葉集、漢詩をまとめた懷風藻などが作られたのも奈良時代であつた。これらの書物はみな漢字のみでつゞられたわが上代の代表的著作であるが、その中には純粹の漢文に近いものあれば、日本語を

漢字をかりてうつしたのもあり、また兩者の混淆したものもある。

漢字をかりても、大陸文化の影響は著しかつた。平安朝の知識階級は、六朝や隋唐の詩文を喜び、喜んでこれを愛讀したり、あるいはみずからまねて作つたりした。漢字からかな文字が作り出されて、かな交りの國文が成立してからも、その内容には支那の思想や文章の影響がにじみしつぱかりでな

く、公用の文章にはなま主として漢文が使われた。

ひとり公用の文章ばかりではなく、記録や日記の文章も純粹な漢文ではないが、漢文体に近い形のものであつた。舊儀文においては、假文といふものができ、近年まで廣く使われた。「後漢書」「後魏書」の「奉本」「不墮」「加此御座候」などと、漢文めいて、文字が顛倒しているものも、世間では不自然

とも思はずに使つていたのである。これらは、全く漢文普及の影響である。

そのみではない。源平盛衰記・平家物語・太平記などの軍記物には、漢文の口調や故事が非常に多い。佛教の證驗を記した書物にも、印契や支那の故事傳説が多くはいつている。これらの書物が作られたころには、大陸との公の交通はすでに中絶してしたが、かの國の文物はもっぱら僧侶によつて輸入された。

鎌倉・室町時代の學藝は、おもに公家と僧侶によつて維持された。漢唐の經學は公家の中に秘傳として残り、宋元の文化は僧侶の間に行われた。ことに京都の五山を中心とする禪宗は、盛んに詩文を作ら、また漢籍の口誦歌をも試みた。いわゆる五山文學は全く漢文學にほかならない。もともと武家の中にも、まれには漢籍を集めたり、學問をすゝめたりした人がある。北條氏の金沢文庫、上杉氏の冠利學校の藏書は古今に知られている。

徳川家康は儒教によって世の中を治めてゆく方針を立てた。江戸時代に儒学が興隆した一因はこゝにあったが、儒学は地方にも盛んに行われて、学問といえは漢学をよすのが常であった。林羅山は家康に仕え、その子孫は代々幕府の儒官となり、多くの儒者が諸侯に仕え、幕府には昌平坂學問所、各藩には藩学が置かれ、朱子学が中心となった。本郷の湯島をはじめ、諸藩に孔子廟が建てられた。

江戸時代に大陸との交通の任に当たっていたものは多くは彼我の南人で、新しい書物も学問も断々輸入され、明の遺儒もわが文化の興隆にあずかって力があった。かくて学問は上下に普及し、文運は四方に発展した。中江藤樹は朱子学から陽明学に轉じ、實踐を訓え、近江聖人の尊称を得、熊沢巖山はその門に出て、池田侯に仕えて政治的手腕をもつて知られた。京都では伊藤仁斎・東涯の父子が知られ、江戸では荻生徂徠・太宰春台の師弟が聞えたが、そのほか、名を後世に傳えた大儒はいちいち枚挙にたえない。山崎闇斎は國學と結びつけ、貝原益軒は儒教をもとにして、かなまつの教訓書を作った。寺院に参ける平民教育はますます盛んとなり、いわゆる寺小僧が津々浦々に設けられたが、最近な読み書きするはんのほが、経書の誦讀が廢く行われた。

漢詩漢文を作る風はひとり僧侶のみならず、一般人の間にもひろがった。漢文が朗讀され、漢詩が吟詠され、この風は明治・大正年間にまで及んだ。錢式はった文章は漢文口調でつゞられることが常法であり、碑文などは漢文体であることがほとんど常識であつたのみならず、一般の文章にも漢文口調は多く、欧文の新聞には好んで漢語が用いられ、漢文の故事成語は日常の新聞紙・会話に常に使用された。その風は近ごろになつてようやく衰えたが、矛盾とか、蛇足とかいふ日常使うことばの出現は漢籍にあり、「社説」とか、「井の中のかねず」とか、「五里霧中」とかいうことばも、もとは漢文か

ら出たものである。

漢文がわが文化に影響した点は実に多く、ギリシア・ローマの古典が欧米の文化に及ぼした影響とは同目の数でない。

注

(1) 元明天皇が天武天皇の御遺志を繼がれて、太安萬侶に命じて作らされたもの。三卷。内容は推古天皇の時まで、文体は國體が多い。

(2) 金入經三・太安萬侶等が元正天皇の勅を奉じて編み入れた。三十卷。内容は持統天皇まで、文体は漢文に近い。

(3) 元明天皇の時、諸國に命じて、その山川・地味・産物・傳説を書き記して差し出せられた。かくてきあがったものであるが、今日一國の全部または大部分をなすものは、常陸・播磨・肥前・豊後の五部のみで、その他は「他書に引用された断片を集めたものである。文体はやはり、國語を漢字の音訓をかいて記している。

(4) 奈良時代までの和歌を集めた書。今本は二十卷。續集未詳。原文は漢字のみでつゞられた。

(5) 邦人の作った漢文を選んだ書。編者未詳。

(6) もと、今日の東京に都した吳・袁晉・宋・齊・梁・陳の六代をいふが、文學史上では、ほとんど、後漢末から隋代までの間をさす。

(7) 正史物語・駿記物語などという。

(8) 平安朝のものは今昔物語・銀葉時代のものでは純古漢語・土訓など。

(9) 遷跡は横浜市磯子区新名寺の境内。

(10) 遷跡に近く足利学校遺跡図解館がある。金沢文庫の蔵書が大部分が散佚してしまつたのに対し、學校の蔵書は大半として現存している。

(11) 名は信勝、また道勝。羅山子・羅浮山人等の号がある。京都の人。明暦三年没、年七十五。寛政(紀・春勝)はその子。

(12) 名は原、近江の人。慶安元年没、年四十一。

(13) 名は信繼、京都の人。元禄四年没、年七十三。

(14) 名は龍淵。常寂を古義堂という。宝永二年没、年七十九。

(15) 名は畏風、仁斎の長男。元文元年没、年六十七。

(16) 名は夢松、字は茂卿、柳沢侯の儒。享保十三年没、年六十三。

(17) 名は純、信濃の人。延享四年没、年六十八。

(18) 名は孫、字は敬謙、京都の人。天明二年没、年六十五。

(19) 名は信信、筑前の人。正徳四年没、年八十五。

(20) 別號非子。戰國策から出た。

(21) 社職という人の結がリズムに合っていないのが多いので、詩文や著書をいかに作って、誤りの多いたとえ、轉じて粗漏のこと。宋の王惲の野客叢書に見える。

(22) 見識のせまいたとえ。莊子に用いている語。

(23) 後漢書張衡傳に附録された張衡の故事。

九 詩(五首)

第一首はわが國で特に有名な唐詩である。この詩にあてがれてこの寺を訪れる人は多い。

第二首は漢唐の時代には西域との交通路に当たつていた沙州(今の甘肅省敦煌縣)のあた

りの沙漠中の、人家の絶えたところを通過する旅人のさびしいところをよく表わしている。

作者はかゝる西域の地のありさまを体験によつて歌つた詩人として有名である。第三首は

春の夜の楽しいさま、古來傳説された詩である。第四首は当もむきをかえて専門の文人で

ない學者の作品を録した歌、この詩は、王陽明が龍城の駅丞に左遷されて、赴任の途中、

山野の中の一寺に宿し、俗界を離れようとする念を起したところ、一異人に救められ、禪

然悟つて壁間題した一首と傳えられる。吾人のわだかまりのない、胸襟の開けたさまを

味わうに足りる。第五首は安祿山の乱にあたり、杜甫は避難の途中、賊に捕らえられた。

その至徳二年の春の作といふ。亂破れてとか、故郷からの通信が絶えたとかいふのはこれ

がためである。

楓橋の夜泊

月落もみちすなびて霜天に満つ

376.8

問題中心新制大學受験の手引

附・全國新制大學一覽表



日本教職員組合高等學校部編

目 次

新聞大衆実験にそなえて

新聞大衆の性格は何か	5
入學者選抜の方法はどうか	6
進學適性検査について	10
學力検査について	12
受験上の注意	16

図

國語學習のあらと方法	17
學力検査の方法と實例	21
問題集 第1回 實力テスト	34
第2回 實力テスト	38

表

學習の要領	43
試験問題の選別	50
問題集 第1回 實力テスト	63
第2回 實力テスト	67

一

般 社 會

一般社会科学の學習方法	72
學力試験の施列と解説	76
勞働問題実力テスト	79
問題集 第1回 經濟問題・經濟政策の實力テスト	81
第2回 社會經濟の實力テスト	84
第3回 民主主義・國際問題の實力テスト	86
人 文 地 理	
人文地理の學習方法	88
學力試験の施列と解説	91

— 2 —

問題集 第1回 實力テスト	97
第2回 實力テスト	99
第3回 實力テスト	101
日 本 史	
日本史の學習方法	104
問題集 第1回 實力テスト	107
第2回 實力テスト	109
第3回 實力テスト	111
第4回 實力テスト	113
第5回 實力テスト	115

東 洋 史

東洋史の學習方法	117
學力試験の施列と解説	121

西 洋 史

西洋史の學習方法	128
學力試験の施列と解説	135
問題集 第1回 實力テスト	139

時 事 問 題

時事問題の學習	142
學力試験の施列と解説	144
問題集 第1回 實力テスト	152

物 理

物理の學習方法	155
學力試験の施列と解説	155
問題集 第1回 實力テスト	164
第2回 實力テスト	167

化 學

化學の學習方法	169
---------	-----

11

— 3 —

五、受験上の注意

すでに述べたように、新法は法は特殊の假定的知識や前知を要求しないよう
であるから、受験者は決して恐れたり、ためらったりする必要はない。また
のために特別な準備知識をすることもむだである。ただ、問いや答え方の形
普通の試験の場合と相違が起っているから、見なれない間は、やりにくく感ず
るかもしれないが、着ちついで試験場での指示にしたがつて、黙いていけばすくなく
である。

本書の内容は問題を多量にあげてあるから、このような新傾向の問題になれ
ることができる。

しかしいくら問題をかき集めても、各人の能力以上に熟達することはできない
りでなく、場合によっては、むしろ早のみにみせして逆効果を生じ、試験場
際の緊張問題を解く際に、根拠を考へて固執して、すなおに正しい解答を得る
ができないこととさえある。

要するに、各自の平素の学力を、餘すところなく發揮できるように努力をさ
しておけば十分である。昭和 22 年度の試験成績を調査した結果からみても、第
一形式の試験をくりかえして受験した者は、試験になれておちつきができた
うだけしか試験結果はない。中には練習したため思いがけいしたもののさへあ
る。試験の形式においては、問題量が多いからひとつひとつの間に、あまり時間を
けずると、全部の問題を一通りやってみることができなくなるかもしれない。
から自分のできそうな問から、つぎつぎと解いて行つて、途中で解答できない問
直面したら、長くこだわらずに次の問にうつり、一通り終つたあとで再び未解の
問にとりかかるとよい。また全部できなかったらといって落胆することはない。

国語

一、國語學習のめあてと方法

〔1〕何を學習するか

すべての國語は、それぞれの國語で、社会生活を営むに必要な知識・技能を得る
るに學習するのである。ことはば、社会的必要から生まれた社会的手段である
。ことはばにいての知識やことばを使う能力を身につけることは、りっぱな人
になるための基礎的條件である。すなわちことばを効果的に使うことのできる人
として、はじめて個人としてその個性を伸ばし、社会人として自己を社会に適應さ
せていくことができる。

ことはば、語彙・文法・語彙・語彙を通じて、その言葉の生活の場で自然に習得される。
れども、この自然の習得だけでは、ことばを効果的に使用するのに、必要にして
かな知識や技能は得られない。こゝに國語學習の意義がある。

〔2〕ことばとはどういうものか

ことばのはたらき——言語活動——は、もともと一つのはたらきであるが、あら
わかれたから次のように四つに分けてみることが出来る。

(イ) 聞くこと——聞き方

日本人は、聞く能力ができていないといわれる。「だまれ。」「問答無益。」などい
うことはしばしばある。いうべき時と聞くべき時との区別をわきまへ、聞く
べき時によく注意して人の話を聞きわけ、その要領を根柢なくとらえることが大切で
ある。

(ロ) 話すこと——話し方

むだなこと、害になることをしやべりまくるおしやべりはやさいが、言うべき
時に、まじったことを相手によくわかるように、はっきり言うことば、たいへん
むづかしい。

時と場所に応じて、相手に適したはなしをする。大勢の前で、自分の信ずるところ

(2) 株式会社 日本郵船

(二) 讀人之「讀」方·作文

必要な文字を、鉛筆・ペン・毛筆で、正しく早く美しく書く。

必要や興味に応じていろいろな形式の文章をつづる。

以上の図々は、耳・目・口・手——心は知うまでもない——などを従つて行つた

このはたらきは、人間を人間たらしめる技術であり、能力である。

これに於ては、はたしとばの二つに分けてみる。

聞くこと、話すことの二つのはたゞさに行われることはがたなしことではあります。

158

これを使う社会が永い年月を経た偉大な結晶であるから、個人が自分

形にかゝるが、文藝が文となるには一定の距離が文藝となり、文藝が文となるには一定の

一口にこまばさというが、こまばさはたふさ

[3] H. Furukawa,

〔3〕 どう練習するか

この表のものを整理して、三入・四入・五入の四つのはたらの数

(イ) 齋庭・朝露・初霜時・夜半時・和歌・俳句など

— 19 —

螢雪時代

八月号



特集

入試傾向の夏期休暇の学習テーマ
分析による

2

大先輩問題演習と解答

文 社

HAGUCHI

昭和七年十月六日創刊、毎月出版、休刊日なし、定価四角、送料別、代金引換可、郵政省認可、新聞紙類、郵便番号〇〇〇〇

1111111111

と眼目に描かれた足跡高い窓。
上巻『源氏本』では古文の敘述を時代別に掲
げ、その名々の特徴をあげて歴史的な説明を
加へ、古文の語彙概念を求めている。下巻
『源氏物語』は、各時代の敘文、類文にわけ、代
表的作品について語句の注釋、文法的説明、
現代語及び鑑賞、疑問の順に記列して、巻末
編でまとめた基礎力の活用をはかっている。な
お、巻末には、重要語彙、慣用語彙、
最近入稿の題名とその対象が付き、本書利
用者へ最大の恩恵を与えている。

現代文の研究

栗原大輔師・文庫師
吉田良平共著

B 6 型 頁 382 冊 200円

最近の入試にとくに重宝化されている現代文の正しい学習法を適切懇切な例文をとりあげてきわめて懇切に指導した、塩田・吉田両先生の手になる現代文の決定版。明治から現代に至る作家・思想家の代表的文章を広く渉猟して、これを各種の出題形式別に配列、制限や解釈、鑑賞などの各方面から鋭い考察、斬新な解説を加えて現代文の実感をたぐみに掌握させている。とくに塩田・吉田の両先生がその得意とする分野を担当して攻玉を明白にしたのも本書の誇りうる特色である。巻末の「現代用語集」は入試対策のために特に工夫を凝らしている。

定版。文学思潮の推移を歴史的に説明しな
か
ら、重要作品、作者などしかりと整理し
や、また付録に「重要作品および作者の比較
研究」一文学史に關する人誌問題」など、文藝
雑誌に時々の資料を収めていた。

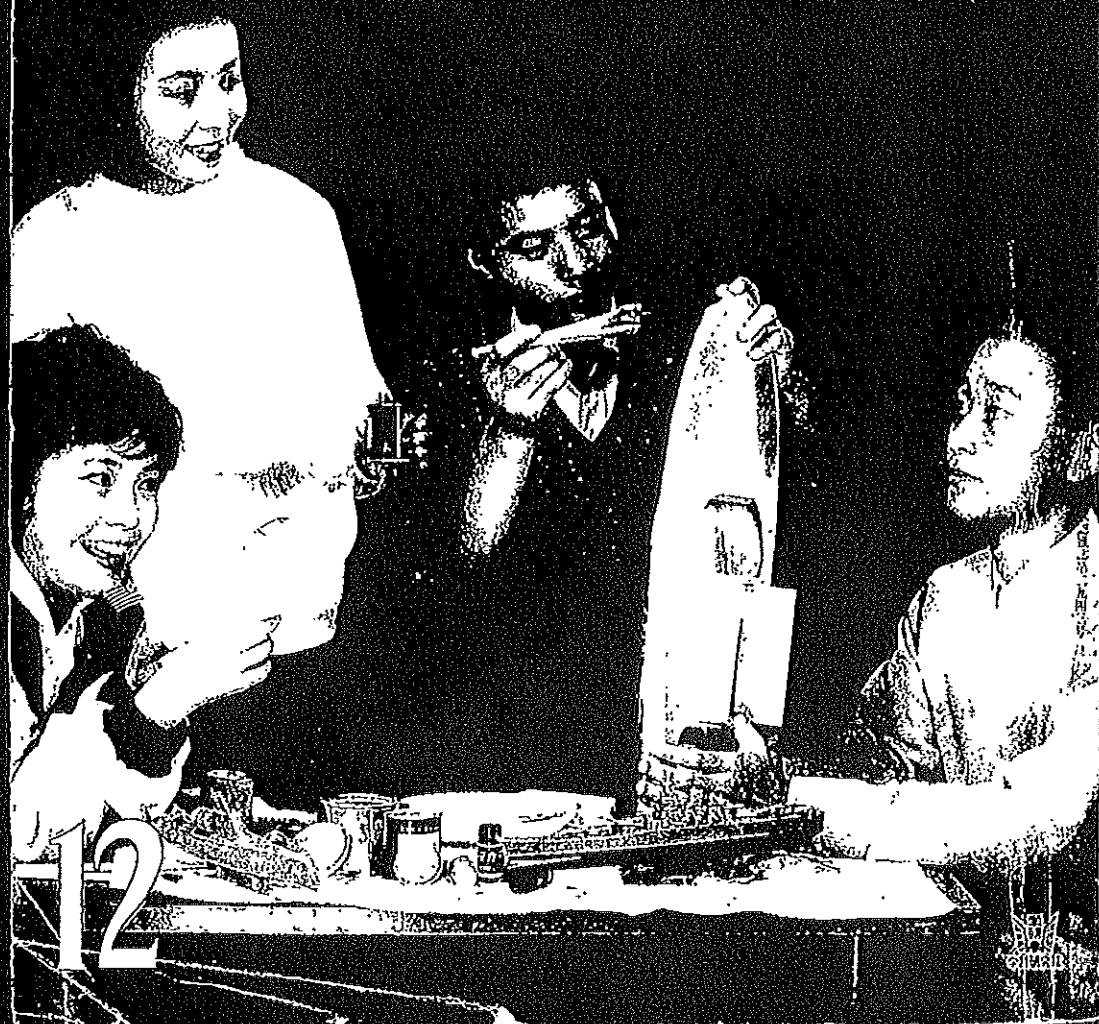
阿部 吉雄著 京大教授

大城富士男おほしろ ふじのおとこ 著 藤村 啓ふじむら けい
 上に対応するため、著名人の文、高校生の文、
 際刘文を引用しつつ、警視廳長の工天と新し
 い報法により、二色副による派閥推敵の契
 例をもとて作文方の向上をはかった、執筆
 にも向く万全の聲。

各B型穀粒二八〇價
定價 一五〇円

古文の整理
上原・源著
総野 国文法の整理
吉田寛著
漢文の整理
＜B・小・平均305頁 各価150円＞

高校コース



あなたは今月号を
何日に買いました
か。

教科書名

あなたは今月号を
何日に買いました
か。

外國の國名（ふくごくのくにな）

教科書名

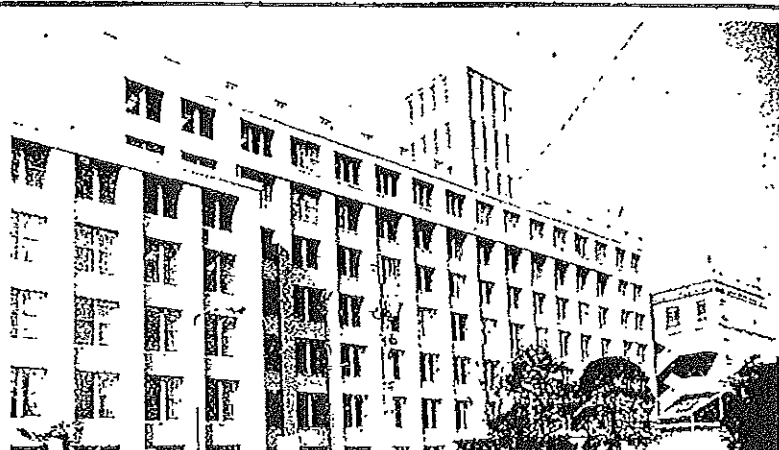
今習っている單元

《上の調査は、ゴールドenクイズの抽
あなたの率直なご意見をお聞かせく
ゴールドenクイズ解答欄

伊豆の踊子

れから人物描写
作文の上達に
とどけます。

卷之四



大
学
院

博士課程
法・経・商・工
各研究科
修士課程
法・経・商・工
文各研究科
学部
法学部
(法・政)
経済学部
商学部
(会計・経営コー
ス・商業コース)
工学部
(土木・精密・電
気・化学)
文学部
(文史・哲・語
は文のみ)
専攻科
(法学科)
通信教育部
(法学部)

学 部 学 科	第 一 学 部 (昼)		第 二 学 部 (夜)	
	筆答試験日	面 接 日	筆答試験日	面 接 日
法学部法律学科	3月1日(水)	3月2日(木)	3月8日(水)	3月9日(木)
政治学科	3月2日(木)	3月3日(金)	3月9日(木)	3月10日(金)
経済学部	3月5日(日)	3月6日(月)	3月10日(金)	3月11日(土)
商学学部	3月7日(火)	3月8日(水)	3月11日(土)	3月12日(日)
工学部	2月27日(月)	2月28日(火)	3月12日(日)	3月13日(月)
文学部	3月15日(水)	3月16日(木)	3月15日(水)	3月16日(木)

注 面接当日都合ある者は筆答試験当日試験終了後面接をうけることができる

法文・ 独学・ 英語・ 商部	1、国語Ⅰ(問題の一部に漢文をだすから選択してもよい)。但し文学部は「国語」 とする。2、社会・数学①社会②日本史③世界史④人文地理⑤数学Ⅰの代換(統計 を除く)⑥数学Ⅱ(三角関数の加法定理・変換を除く)。7、文学部は以上6 科目中、1科目選択。経済学部は②商業経済を加へて科目中、1科目選択。商学部は② 商業経済③商業簿記を加へた8科目中、1科目選択。8、外国語英・独・仏語のう ち、1か国語選択。
工学 部	1、数学①数学Ⅰ代換(統計を除く)②数学Ⅱ幾何(空間図形を除く)③数学Ⅲ④数学 Ⅳ(順列組合せ、確率と統計を除く)。以上四科目のうち二科目選択。2、理科 ①物理②化学のうち、1科目選択。3、外国語英・独・仏語のうち、1か国語選択。

入学試験要項の交付は11月下旬の予定

中央大学

東京都千代田区神田駿河台三の九

昭和36年度入試期日と入試科目――

螢雪時代

新學臨時增刊

全國大學受験年鑑

[illegible]

卷之六

旺文社の三十七年度「入試正解」に採録してある一三三二大学、二〇二学部について、各型の出題数、および科目別の内容からみえ出題比率を調べた結果は、右の表の如きであります。

總的に、B、C型では、問題の科目別がかなり明瞭であるに反して、A型では前年よりも三十七年と、いっそう各科目融合の傾向が強いように見受けられ、分類もむずかしい問題が多く出題されています。

国語(甲)には古文・漢文も含まれる

まず国語ですが、選抜要項によると、「**国語(甲)**とする。ただし、特別な学部・学科において**国語(甲)**のほかに、**国語(乙)**および漢文を出題し、そのいずれかを選択させることができる」となっています。また、この場合、**国語(乙)**と漢文の両方出題して選択解答させるもので、**国語(甲)**と漢文、あるいは**国語(甲)**と**国語(乙)**だけは出題できないことになっています。

ところで、**國語(甲、乙)**の区分ですが、高等學
校學部指導要領によれば、「**國語(甲)**」は、「**言語文**
化を広く深く理解できるように、読解力を豊かにし特
に鑑賞力や批判力を伸張させることが重要であり、そ
の読解の範圍も、現代文と並んである程度、古文や漢
文にまで拡充させる。これとともに現代の國語生活に
対する適応や改善ができるように、いっそう的確に効
果的にことばを使用し得る能力や態度を養うこと」を
目標としています。

B2型三七校については、四間(阪大・信州大など)が半数以上で、A型と同じ六間(神戸大・九大など)

というのがこれにつづいています。前年は二九校のうち四間が一〇校、五間と六間がそれぞれ八校ずつと合計で三十七年度は復分の割合がかたなり變つてゐるが、

このように國語（甲）には、現代文・古文・漢文あるいは国文学法、国文学史など國語の基礎的なものがすべて含まれるべき性質のもので、高等学校では必修として履習する國語ですが、現代文が比較的多く取り扱われるため、**國語（甲）**とは現代文のことのように理解しているむきもありますが、十分注意する必要があります。

・**国語(乙)**は、現代文・古文・国文法・国文学史など、**国語(甲)**から漢文を除いたものについて、あきらかに特定の部分に重点をおいて、それより高い程度の内容をもつものですが、**国語(乙)**は主に古文が主題されるところから、古文のことと想われている人もあるかもしれません、必ずしもそうではないのですから、**国語(甲)**の場合と同様、注意が必要です。

漢文は、**國語(甲)**に含まれている漢文よりやや程度の高いものです。

各大学の**國語の出題科目**が単に「**國語**」と示されている場合ありますが、この場合は**國語(甲)**と考へてよいでしょう。

そのほか、社会は、社会・日本史・世界史・人文地理の各科目を、また理科は物理・化学・生物・地学の各科目について出題し、受験生がその中の一科目あるいは二科目を選択解答できるようにすることになっています。この場合、一科目とするか二科目とするかは大学が決定することになっており、とりたてて述べるべきほどのことはありません。大学によっては必須科目を設けているところもあるのはご存知でしょう。

外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語などの中から一か国語を選択解答することとしています。が、選択した外国語の問題の一部に、他の外国語を加えて選択させることもできるようになっています。外国語の出題は実際には英語だけという大学も多く、受験生の選択も英語がほとんどであることは、高等学校の授業はほとんど英語ですから当然ですが、他の外国語を配列した受験生のためにも、大学は出題する外国

に割合で出題されていて、これは前年と同様です。したがって全般的にみて非常に均衡のとれた出題となっています。しかし千葉大・東京商船大・富山大・阪大・和歌山県医大のように、五割中三割が数Ⅲというか、はたは洗出題になっているところがあり、因して理科系の種類をあらかじめ受験生に周知させる方法をとるものとされています。

以上各教科の出題方法について述べましたが、各大学の出題は、この範囲内でそれぞれ多少異なつた方法によつてゐる場合がありますから、募集要項で大学のホームページを十分よく見る必要があります。

そのほか大学では、入学後専攻する学部・学科ごとに、入学前に高等学校で履修しておくことを必要と出題める科目や、入試のさい選択受験してほしい科目を定めた年の一月までに表示することができることになっています。これを「希望表示」と呼んでいます。これについては五六頁をご参照ください。

以上は一般的な場合ですが、特殊な場合、たとえば職業科目や実技科目について、少しつけ加えておきましょう。

まず職業科目については、選拔要項に「農・工・商（経済・本産・家政等に関する大学・学部・学科および教員養成学部）の主攻ならびに短期大学では、社会・数学・理科の二教科またはそのうち二教科の科目を出題する場合、これに職業または家庭に関する科目を加え、職業課程卒業の受験者に選択解答しうる方法をとるものとする」とあり、またたとえば、高等学校の機械科や商業科・農業科といった職業に関する学科や家庭科の卒業生が、高等学校で履修した専門科目で、普通科目のかわりに受験できるようになっているのです。この場合、一教科のなかで二科目を選択せよとすべきは、うち一科目は普通科目で受験させることになっていますが、一科目選択のときは、どちらを選択させてもよいことになっています。

これを「代替科目」といつていますが、この代替科目を出題する場合でも、普通科目を受験した人に比して不利にならないよう考慮をうながしていますから、